

2025 年度愛知芸術文化センター運営会議 会議録

1 日 時

2025 年 9 月 17 日（水） 午後 2 時から 3 時 20 分まで

2 場 所

愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A

3 出席者

委員 16 名

別添「出欠表」による

4 傍聴者

なし

5 議 事

- (1) 知事あいさつ
- (2) センター長あいさつ
- (3) 各組織の部門長からの事業概要説明
- (4) 各専門委員会委員長からの報告
- (5) 国際芸術祭推進室長からの報告
- (6) 文化芸術課からの報告
- (7) 意見交換

6 意見交換の内容

<大村座長>

それでは、続きまして、各委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。
どなたからでも結構ですのでご発言をいただきたいと思います。

<伊藤嘉章委員>

愛知県陶磁美術館の伊藤です。

新しく体制が変わって地方独立行政法人の話も出ましたが、今、愛知県陶磁美術館、愛知県美術館の両方で、「仕事の見える化」をしていると思います。その中で一つ今回思いましたのが、例えば愛知県美術館は文化財防災という分野で、愛知県内でも代表的だし、あるいは全国的にも非常によく活動しています。かつて私が国立文化財機構におり、東日本大震災の文化財防災の活動に携わった時も愛知県美術館はすごく活躍をしていました。例えばそういうのが、今回の事業報告で見えてきていないのですが、これから南海トラフとかがありますので、そういうものに対してリーダーになっていく、役割をしっかりと果たしていく、大きく声を上げて引っ張っていただく、そういう部分がもっとあったらいいのかなと思いました。やっていない仕事をやっているというのはだめですが、やっている仕事

はやっていると言っていないといけないのかなと思いました。

<平瀬美術館長>

美術館館長の平瀬です。

ご意見ありがとうございました。確かに、南海トラフなど、地震の話題は日本では尽きない状況になっております。愛知県美術館としてずっと防災対策を進めておりましたし、毎年3～4回シミュレーションミーティングということをやしまして、いろいろな課題のもとに勉強したり、シミュレーションしたりするということが続けております。地方独立行政法人化という中で、その活動をおろそかにするということはありませんが、これから愛知県陶磁美術館と一緒に、それから他の県立の施設とも一緒に、様々な形で防災意識を高めたり、防災体制を整えたりしていきたいと思います。それから愛知県博物館協会などの横の組織もございますので、そういうところとも連携しながら、適切な活動を進めていきたいと思っておりますので、どうぞまたよろしく願いいたします。

<大村座長>

他にいかがでございましょうか。

<佐藤委員>

ありがとうございます。佐藤久美でございます。

「あいち国際女性映画祭 2025」ではイベントディレクターを務めております。30回目を迎えまして、9月11日から15日まで5日間開催しました。10日に行いました合同記者会見には大村知事にもおいでいただき、ご挨拶もいただきまして、30回といわず50回、60回と続けていくようにとおっしゃっていただきました。また、奥田瑛二さんと安藤和津さんがおいでになった時にも、舞台でお話をしていただきましてありがとうございます。

国際芸術祭「あいち 2025」で芸術監督をされているカシミさんからは連携企画として2本ほど映画を推薦していただきました。2本ともとても素晴らしい映画で、両方とも上映したいと考えたのですが、そのうちの1本を選ばせていただきました。パレスチナを舞台にした「ザ・ティーチャー」という大変見応えのある映画でございまして、来場された方からも高い評価をいただきました。このように連携をさせていただいて、素晴らしい映画を推薦していただき、また上映することができたことに感謝申し上げます。以上です。

<大村座長>

ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。

<井上委員>

井上でございます。

昨年の会議で、芸文のコンサートホールの利用率が非常に高いのは、しらかわホールが閉館した影響があるのではないかと、また、この状況が続きますと芸文のコンサートホールを使えない団体が増えてしまうのではないかとということを申し上げました。それに対して、

芸術劇場の支配人さんからオーケストラの方々と利用調整の相談をしていますというお答えがあり、その副産物として四大オケで一つの公演をやるという企画が出たりしていますということをお聞きしていました。この企画が実際に「愛知4大オーケストラ・フェスティバル」ということで、8月31日に実施され、大変良い試みであったということで、お客様も非常にたくさんいらっしゃって、この「愛知4オケ」のコンサートを来年も続けられると聞いております。これはやはり芸術劇場さんのご尽力で、4大オーケストラに新しい方向が示されたということで、とても良いことだったと思います。

また、しらかわホールにつきましては、来年の4月に再オープンすることが決まったということで、これも大変喜ばしいことです。1,800席の芸文ホールと700席のしらかわホールは、それぞれとても良いホールで、両方とも愛知の音楽文化には欠かせないホールです。ホールの利用率は大事なのですが、100%ばかり続くことを目指すなど利用率にとらわれすぎても、なかなか厳しいものになってしまうのではないかなと考えたりもいたしました。でも、本当によかったと思っております。感想を述べさせていただきました。

<大村座長>

ありがとうございました。

<浅野事業団常務理事 芸術劇場支配人兼劇場運営部長>

支配人の浅野でございます。ご意見いただきましてありがとうございます。私どももしらかわホールの再開を大変喜んでおりまして、おっしゃっていただいたように、当劇場のコンサートホールのキャパシティが1,800席で、どうしてもちょっと大きすぎるというご利用者もありましたので、やはりホールやキャパシティの選択肢が増えるということは、しらかわホールも素晴らしいホールですので、愛知県の芸術文化の振興にも非常にいいことなのだと思います。それから、ご心配をいただきましてありがとうございます。100%を目指しているわけではありません。その理由は、働き方改革が言われる中、舞台技術のスタッフにとって100%が続きますと辛いからです。それでもご利用いただけるお客様がいらっしゃるということは、私どもにとっては大変ありがたいことです。日頃スタッフ一同、できるだけご利用いただけるよう頑張っております。

また、四大オーケストラのことにしましては、非常にいい公演だったとお客様からのご好評をいただいております。私どもも芸術監督をはじめお手伝いをさせていただいておりますが、これはあくまでも四大オケの方からこういうことをやりたいというご提案があって行われた公演でございますので、各オーケストラの皆様に感謝を申し上げたいと思っております。オーケストラ連盟の方も聴きに來ておられましたが、大阪のフェスとはちょっと違い、やはり愛知のお客様は大変温かく、大阪だとどうしても野球のように最頂のオーケストラに声援が多くなり、声援に大小があるというふうにおっしゃっていましたが、愛知はそういうことがなくて、全てのオーケストラを全てのお客さんが応援しており大変素晴らしいとおっしゃってございました。遠くからお見えの方もいらっしゃいましたが、愛知県の素晴らしさ、お客様の素晴らしさも知っていただけたのではないかなと思っております。これからも頑張っていりますので、ここに参加していただいている皆さんも愛知

県芸術劇場に足を運んでいただければと思います。ありがとうございます。

<大村座長>

ありがとうございました。しらかわホールについては私も本当に良かったなと思いました。ビルが老朽化して事業者がもう売るんだということになったら、再開発しかないなと、手を出しようがないなと思っていました。この芸文センターも約 2,500 席の大ホールと 1,800 席のコンサートホールと小ホールがありますが、名古屋市も金山の市民会館を建て替えないといけなくて、そうしたら、しらかわホールを民間のファンドの方が買ってくれて、それで、ファンドの関係の方に名古屋とかこの愛知にゆかりのある方がいて、とにかく地元貢献でお化粧直しして残しますと挨拶に来てくれました。本当に感謝感謝でありがとうございますと言っておきました。僕は正直に言って残ると思っていませんでした。老朽化でビルを売ると言ったので、普通ならもう壊して再開発しかないと思っていましたが、本当にありがたいことです。

他にいかがでございましょうか。

<水野みか子委員>

オルガンの企画にはトーク時間がたくさんあり、浅野支配人さんのお話をいつも楽しく聞かせていただいています。オルガンに関する啓蒙、あるいは公演も数が増えてきており喜ばしく思っております。トークを交えて説明しながら演奏し、オルガンに馴染んでいただくというタイプの公演が多いと思います。愛知のオルガンは他にあまり例を見ないぐらい大規模であり、楽器としても非常に素晴らしいものです。開館当初もそれをアピールしていましたが、今でも世界有数のホールオルガンであることは認識されていると思います。

愛知県芸術文化センターが設立された三十数年前と今とを比べますと、いろいろと時代が変わっているのですが、文化や芸術、特に劇場系のパフォーマンスにあっては、ハコモノが進展を作るみたいなどころがあるとしみじみ思います。30 年前にこちらの建物ができた時に、ちょうどしらかわホールも始まったばかりの時期でしたが、こうした新設ホールが、愛知県あるいは名古屋の文化拠点になるんだろうなと予感しました。その頃と今とどう違うだろうと考えてみますと、やはり現在は、地域のハコモノと公共施設の連動が必要だと思っています。愛知では、クラブカルチャーは名古屋ではずいぶん前から盛んですし、ライブハウスもたくさんあります。比較的小規模なサロンのホールもあります。愛知県芸術劇場が大規模企画の拠点になるとすれば、小規模の企画は小さいものなりのメリットがありますので、両者がうまく連携を図るのがいいと思います。様々なサイズやタイプの劇場やホールがあるということは、実演家としては演目に合致するものを選んで使い勝手がよいということであり、観客としてはメニューのバラエティーがあって楽しいということです。愛知では劇場の多様性が根付いている、という特徴があると思います。

<唐津事業団常務理事 芸術監督>

ご意見ありがとうございます。事業団の芸術監督の唐津です。今言っていたように、やはりこの劇場だけではなく、いろいろなこの地域にある劇場や文化団体とどのよう

に協力していくことができるかというのが、やはり愛知県全体として、どうやってこの地域からアーティスト、それから観客を育てていけるかということにすごく大きく関わっているのだろうと思います。国際芸術祭でパフォーミングアーツとビジュアルアーツを一緒にやるということを通して、他の地域にはない、芸術のジャンルを超えた一体感というものをもたらしめていると思いますので、そういうことも含めて、ジャンルや地域、規模感といったものを超えた形での連携をこれからも目指していきたいと思っています。

本日事業団のチラシの中に、パフォーミングアーツセレクションというチラシがありますが、これは今回初めてメニコン劇場さんと一緒に取り組むというような内容になっております。メニコンさんにとっても、実は共同で主催するのは初めてのケースとなるそうです。非常に力を入れてくださっておりまして、当劇場の小ホール、大リハーサル室、中リハーサル室、そしてメニコンシアターという4つの会場を使いまして、4日間にわたってフェスティバルのような形で行います。これが国際芸術祭の期間中でもあるということもありまして、本当に多くの方に足を運んでいただける催し物になるのではないかなと思います。事業団としては愛知県芸術劇場を主体に事業を展開してはおりますけれども、もっといろいろな地域、それから先ほどのオーケストラも含め、また、今度の10月に名古屋のバレエ団ともご一緒することになっておりますので、そういったいろいろな方々と手を取り合って、愛知県の文化、芸術のさらなる発展に寄与していきたいと思っております。ありがとうございました。

<大村座長>

ありがとうございます。他にはいかがでございましょうか。よろしいですか。

メニコンさんもありがたいことで、本当に素晴らしいところだと思いますので、またぜひご活用いただけたらと、いろいろなことがありがたいと思っております。

それには及びませんが、私ども県立明和高校の中高一貫校がこの4月から始まって、音楽科も40人のうち20人は中学からの中高一貫の6年間ということでスタートいたしました。音楽コースはもっと倍率が高くなるかと思ったら意外と高くならなかったのは、やはり中学校から来るというのは、小学校で本当に真剣にというか、先生についてやっている子しか受けに来ないということで、確か2倍なかったのかなと思います。明和高校の中学校の普通コースは17倍でした。あそこの音楽科のところはこの際もう全部作り変えちゃえとか言っております。もうちょっと大きくして、300人ぐらい入る音楽ホールで、生徒さんの発表会、空いていけば地域開放、一般開放するつもりなので、そういう意味で使っていただけるかなと思いますので、いくつかあればいろいろやっていただけるかなと思います。あとこれも今、常滑で収蔵庫を外に作るということも発表しました。愛知県美術館と陶磁美術館、それから県立芸術大学の皆さんもいっぱい作品を作っていただきますので、収蔵庫を造るということで、調査費をつけてどんどん進めております。ここの収蔵庫もだんだん先が見えてきたというか、いっぱいになってきたという話ですので、進めていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間もだいぶ迫ってまいりましたが、よろしいですか。ありがとうございました。それではいただきましたご意見等々につきまして、またしっかりと取り入れさせてい

ただきまして、この芸文センターの運営に活かしていければと思っております。皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。以上で本日の運営会議を終了させていただきます。ありがとうございました。